東京圖書館藏

特31
345

毛利氏略系

德山藩毛利氏略系

毛利輝元二男

○就隆 百助 三次郎 日向守
從五位下 延寶七年八月八日卒于江戶七十八歲

○元賢 初元隆 元九 式部 日向守
從五位下 元祿三年五月二十一日卒于江戶三十一歲

○元次 龜之助 永井主計 飛彈守
從五位下 實元賢第 享保四年十一月十九日卒于江戶五十三歲

博古堂藏

近藤清石著

毛利氏略系

博古堂藏版

東京圖書館藏

特31
345

德山藩毛利氏略系

毛利輝元二男

○就隆　百助　三次郎　日向守
從五位下　延寶七年八月八日卒于江戸七十八歲

○元賢　初元隆　元禄三年五月二十一日卒于江戸三十一歲
從五位下

○元次　龜之助　永井主計　飛彈守
從五位下　寶元賢第　享保四年十一月十九日卒于江戸五十三歲

○元堯 初就清 龜次郎 百次郎
享保四年五月二十八日家督
六年二月十一日卒于江戸二十歳

○廣豐 初廣房 三次郎 但馬守 山城守
從五位下 茅山
實元堯第
安永二年十月二十九日卒六十六歳

○廣寛 初豐長 求馬 志摩守
從五位下
寶暦八年四月八日家督
明和九年二月二十六日卒于江戸三
十歳

○就馴 專之助 大和守 石見守
左兵衛佐 從五位下
實廣寛第
文政十一年三月二十日卒七十九歳

○就壽 後廣鎮 德太郎 兵庫 大和守
日向守 兵庫頭

寛政九年九月二十四日家督

○元蕃 初就軌、廣篤 德太郎 山城守
淡路守
天保七年十一月五日家督

○元功 平六郎
實毛利元敏第

岩國藩吉川氏略系

毛利元就二男

○元春 少輔次郎 治部少輔 駿河守
從四位下
安藝國山縣郡新庄日山城主吉川治
部少輔興經養子天文十八年家督

○元長　初元資　崔壽丸　少輔次郎
天正十四年十一月十五日卒于豐前
小倉五十七歲
治部少輔　家督
天正十年六月五日卒于日向國四十歲
十五年
藏人頭　侍從

○廣家　初經言　如兼
從四位下
實元長卿
寬永二年九月二十一日卒六十五歲

○廣正　又次郎　左介　美濃守　內藏助
元和元年六月二十五日家督
寬文六年五月五日卒六十六歲

○廣嘉　初廣佳、廣純　長松丸　左馬助
監物
寬文三年八月二十八日家督
延寶七年八月十六日卒于萩五十九
歲

○廣紀　初廣猶　長熊　內藏助
元祿九年七月十三日卒于萩三十九
歲

○廣達　勝之助
正德五年六月十九日卒于江戶二十
一歲

○經永　龜次郎　左京
明和元年十月七日卒五十一歲

○經倫　初豐房、永貞　吉五郎　監物　衛山
實毛利廣豐九男
享和三年九月七日卒五十八歲

○經忠　初經通　和三郎
寬政四年十月二十六日家督
享和三年五月二十日卒三十八歲

○經賢　初忠進　寬三郎
文化四年正月十日卒十七歲

○經禮　初賢好　寶經賢舛　天保七年十二月十日卒四十五歳　幸之助　監物

○經章　初賢章　寶經禮舛　天保十四年十二月七日卒五十歳　尚五郎

○經幹　初章貞　從五位下　明治二年三月二十日卒四十一歳　龜之進　監物　駿河守

○經健　從五位　明治元年十二月二十八日家督　勞之助　駿河守

重吉　為宗家毛利敬親猶子

紀元二千二百廿年

山口縣史畧卷第二

山口縣士族　近藤清石　著

周防國之中

正親町天皇永祿三年正月、元就隆元御即位料ヲ獻ス、國清寺住職立雪惠心本山東福寺ニ往來シ、京師ノ事情ニ熟スルヲ以テ、元就父子ノ依賴スル所トナリテ東上シ、之ヲ進納ス、天皇御扇ヲ惠心ニ賜フ、コレヨリ惠心王座ニ咫尺スルヿヲ得テ、後遂

博古堂藏

紀元二千二百廿二年

二大照佛智國師ノ號ヲ辱クセリ。（古文書。寺社證）

（文潮音寺所藏御扇）

五年十二月。隆元安藝ヨリ下リ岩國ニ居ル。是ヨリ先キ大内義長ノ長門ノ豆山城ニ奔ルヤ。援ヲ其兄大友義鎮ニ乞フ。初メ義長ノ大内氏ノ後ヲ襲ク。義鎮之ヲ不可トス。義長用ヰス。義鎮之ヲ含ミ。且ツ之ヲ援クル。毛利氏ト兵ノ結レテ解ケサランヲ慮リ。其乞ヲ許サス。義長死スルノ後反テ毛利氏ト交誼ヲ約セシカ。大内氏以來豐前國門司城ノ長門ニ屬スルヲ以テ之ヲ取ラント欲シ。永祿三年ニ至リ兵ヲ出シテ門司ヲ攻ム。翌年敗レテ豐後ニ引還ル。是ニ至リ復兵ヲ出シ門司ヲ攻ムルヲ以テ。之ヲ指揮スヘキカ爲メニ下向セリ。

（古文書）

六年二月。是ヨリ先キ將軍足利義輝ノ旨ヲ以テ久我通具豐後ニ下リ。聖護院道增

紀元二千二百廿九年

安藝ニ下リ。豐藝ノ間ヲ調停ス。是ニ至テ和議成ル。（同上）五月十六日。隆元本國及ト長門國守護職ヲ兼ヌ。（同上）七月。隆元道增ヲ岩國ニ招キ之ヲ饗シ。鞍馬及ト物若干ヲ贈ル。（同上）廿四日。隆元岩國ヲ發シ安藝ニ還ル。（同上）八月四日卒ス。（常榮寺江氏家譜）十二年四月廿七日。元就安藝ヨリ防府ニ來ル。留ルヿ數日ニシテ長府ニ下向ス。（古文書）七月。豐後兵來リ本國沿海ノ地ヲ侵ス。

（同上）八月。小方隆忠（兵部丞）長府ヨリ來リ道前熊毛郡ヲ云フ。守衛ス。（同上）九月。井上就貞（善兵衛尉）信常就行（太郎兵衛尉）長府ヨリ來リ山口ヲ守衛ス。（同上）十二日。大内輝弘（太郎左衛門尉）豐後兵ヲ帥ヒ吉敷郡秋穂ニ至リ。白松南北岐波床波等ノ土人ヲ誘ヒ。山口ニ進入スルノ警報至ル。是ニ於テ就行小郡ニ。就貞平野ニ斥候ス。就貞糸根峠ニ抵リ輝弘ノ入ルニ遇フ。力戰シテ之ニ死ス。（古文書・井上家譜）輝弘進ン

テ山口ニ入リ。築山ニ陣シ。高嶺城ヲ攻メ。城麓ヲ火ク。時ニ高嶺城督市川經好（伊豆守。）九州ニ從軍シテ家ニ在ラス。其妻（市川大方ト称ス。）家僕ヲ率ヰ城ニ嬰リテ防禦ス。（古文書。市川家）

（譜）輝弘ハ大内氏ノ庶孽ナリ。國滅ニ先タチテ流浪シ。大友義鎮ニ寄食ス。寒微知ル者ナシ。是ニ至リ一隊ノ主將トナリ。忽チ山口ヲ取ルヲ以テ。意滿チ志驕リ。肯テ力ヲ出シテ高嶺ヲ攻メス。只大内氏ノ舊臣ノ來屬スルヲ竢チ。側ラ山口市街ノ富家ヲ點檢シテ軍費ヲ課ス。是ニ於テ無賴ノ徒輝弘ノ名ヲ銜賣シテ横行シ。往々火ヲ放チ其ノ財産ヲ掠奪ス。仁壁神社其災ニ罹ル。（古文書。風土註進案。播山遺事。）高嶺城急ヲ長府及ヒ石見ノ吉見氏ニ告ク。吉見兵先ツ至リ宮野ニ戰フ。（古文書）廿一日。元就吉川元春及ヒ福原貞俊ヲ將トシ。軍ヲ返シテ輝弘ヲ討ツ。廿四日。元春貞俊白松南北木波床波ノ

賊ヲ誅ス。（同上）是ヨリ先キ玖珂郡山代五箇村ノ土人蜂起シ、山代地鎮撫兒玉就光（豐前）守カ砦ヲ圍ム。是日佐波郡右田嶽ノ城兵山代ニ抵リ、就光ヲ援ケテ之ヲ敗ル。（同上）

■日、是ヨリ先キ輝弘高嶺城ヲ攻テ拔ケス。大内氏ノ舊臣モ亦來屬スル者ナキヲ以テ意頗ル沮ム。既ニシテ元就軍ヲ返シテ來擊ツト聞キ、蒼皇山口ヲ棄テ秋穂ニ奔リ豐後ニ遁レントス。土人ノ遮ル所ト

紀元二千二百卅一年

紀元二千二百卅八年

ナリ、海ニ沿ヒ濟リヲ求メテ佐波郡ニ出ツ。右田嶽城兵ヲ出シテ之ヲ擊ツ。輝弘冨海浦ニ走ル。是時安藝ヨリ高嶺ニ赴援スル兵來リ都濃郡椿峠ニ在リ、背後ノ追兵モ亦逼ル。輝弘進退谷マリ遂ニ浮野ノ茶臼山ニ自刄ス。（同上）

元龜二年六月十四日、元就安藝ニ卒ス。（洞春寺）嫡孫輝元嗣ク（江氏家譜）

天正六年、高嶺城督市川經好輝元ニ播磨

ノ上月ニ從軍ス。内藤元輔（小七郎）止リ守ル。
經好男元敎（少輔七郎）ヲ留メ。元輔ニ副フ。元敎
反ス。元輔雜賀隆和（紀伊守）隆利（刑部丞）等ト元
敎ヲ攻メテ之ヲ捕ヘ。變ヲ上月ニ報ス。經
好歸城シ元敎ニ死ヲ命ス。築山ニ自盡ス。
（古文書）元敎ノ墓及ヒ其衆馬ノ塚築山ニ在リ。温古私記ニ。少輔七郎果候以後。山
口市中ノ者ニ七魂付候テ物ニ狂ヒ候ニ付。真ノ少輔七郎ナラハ。米女ノ山郭公ト
云フ所ノ小轍ノ手。常ヽ御自慢ニテ候。御折候ヘトテ小轍ヲ渡シ候ヘハ。成程ヨリ
折タル由候トアリ。今モ猶山口ノ土人米女小督田村ノ三謠ヲ謠ハス。米女ハ市川

紀元二千二百八十年

元教ニ嬖ヒ。小督田村ハ大内氏没落當日ノ謠ニテ。之ヲ忌ムトニフ。

後陽成天皇天正十六年正月。是ヨリ先キ肥
後土冦蜂起シ熊本城ヲ圍ム。豐臣秀吉小
早川隆景ニ命シ之ヲ討ツ。コヽニ至テ又
輝元ニ出陣ヲ命ス。因テ輝元山口ニ出テ。
吉川經言（後廣家ヲ改ム）ト先鋒トシ。雲伯ノ兵ヲ
附シテ九州ニ差遣ス。尋テ輝元小倉ニ濟
ル。（古文書）
十八年。輝元豐臣秀吉ノ命ヲ以テ分國ヲ

紀元二千二百五十年

紀元二千二百五十六年

紀元二千二百五十八年

紀元二千二百六十年

檢地ス。本國八ツ成ニテ十六萬二千五百八十石ナリ。（福原氏文書）

慶長元年。輝元養男秀元ヲ山口ニ封ス。（古文書）

三年九月。玉祖神社火ク。（一宮社傳記）

五年。豐臣氏ノ奉行石田三成大老德川家康ヲ擊ントス。秀頼ノ旨ヲ以テ秀吉遺言スル所ノ諸侯ヲ徵ス。輝元東上シ大坂城ヲ守衛シ。且ツ兵ヲ分遣シ敵城ヲ攻ム。既ニシテ三成關原ニ敗レテ斬ラル。德川氏輝元ノ所領安藝備後伯耆出雲隱岐石見及ヒ備中ノ内四萬石ノ地ヲ削奪シ。防長二國ヲ輝元秀就ニ與フ。（古文書。江氏家譜。關原事。）十二月。兼重元續（和泉守。）藏田元連（與三兵衛尉。）ニ命シ兩國ヲ檢地ス。兩國石高二十九萬八千四百八十石二斗三合ニテ。本國ノ石高十六萬四千四百二十石二斗壹升二合ナリ。内玖珂郡ニテ三萬石ヲ割キ。吉川廣家ノ采

紀元二千一百六十二年

地トス。（古文書・検地帳・石高書抜）秀元ノ封ヲ長門豐浦ニ移ス。（同上）

八年十月四日。輝元伏見ヨリ始メテ吉敷郡ニ至リ。宇野令糸米ノ覺香寺ニ居ル。（江氏家譜・井原元歳覺書）佐世元嘉長門守ヲ以テ高嶺城ヲ守ラシメ。長門國阿武郡萩ニ赴ク。留ル丁數日。城地ヲ相シテ還ル。是ヨリ屢々萩ニ赴ク。（古文書）

紀元二千一百六十四年

九年。輝元都濃郡ニテ古帳三萬五千石ノ地ヲ割キ。二子就隆ニ與フ。（抑並年表）八月六日。輝元伏見ニ上ル。閏八月。伏見ヨリ至ル。（江氏家譜・新譜雜錄）十一月十一日。萩城ニ移ル。（江氏家譜）

紀元二千一百六十五年

十年。吉敷郡上宇野令多賀神社境内ニ大内義隆ノ靈社ヲ創建シ。寶現靈社ト名ツク。之ニ殉難ノ士及ヒ二条良豐持明院基規ノ靈ヲ合祀ス。（萩山社傳記）七月。桂元綱（三郎兵衛尉）三上元忠（平左衛門尉）輝元ノ命ヲ以テ。天野元信及ヒ其子與吉會蔵等ヲ山口ニ誅ス。

紀元二千二百六十六年

事長門ノ部ニ詳ナリ

十一年。吉敷郡上宇野令香積寺ヲ毀チ。其材ヲ萩ニ移シ洞春寺ヲ建ツ。香積寺ハ大内義弘ノ菩提院ナリ。（今ノ瑠璃光寺ノ舊地ニテ。五重塔則チ香積寺ノ遺物。瑠璃光寺ハ元禄元年仁保郷ヨリ移ス所ナリ。）（風土注進案。寺社證文。）

紀元二千二百六十九年

十四年。王祖神社ヲ再建ス。（社傳棟札。）十月廿四日。桂元綱高嶺城城督トナル。（古文書）

紀元二千二百七十年

十五年。防長檢地成ル。本國現檢高二十九萬六千四十石七斗壹升八合。内三萬石毛利就隆。四萬五千石吉川廣家ノ采地ナリ。（檢地帳。石高書拔。役人帳。）

紀元二千二百七十一年

十六年七月廿七日。玖珂郡大竹川洪水隄ヲ崩シ和木村ニ決ス。コレヲ新川ト名ツク。（玖珂郡誌）是年毛利就隆始メテ江戸ニ赴ク。

紀元二千二百七十四年

後水尾天皇慶長十九年。吉川廣家老ス。（系圖。三末）

（年表）十一月。毛利就隆輝元ニ大坂ニ從軍ス。

紀元二千五百七十五年

徳川氏後藤左門（飛彈守ノ男）ヲ輝元ニ預ク。輝元之ヲ山口ニ置キ、三上元友（平兵衛尉）等ニ命シテ監護セシム。元友當直ノ日左門自殺ス。元友因テ屠腹其ノ怠慢ヲ謝ス。（三上）

家譜

元和元年六月、高嶺城ヲ壞ツ。幕府諸侯ニ居城外ノ城砦ヲ廢スヘキノ令ヲ布クヲ以テナリ。（古文書　桂家譜）十月十九日、内藤元珍（孫右衛門尉）輝元ノ内旨ヲ以テ佐波郡冨海村龍谷寺ニ自裁ス。家僕二人（都濃半右衛門、花田理右衛門）之ニ殉ス。是ヨリ先キ元珍カ父元盛（修理大夫）本國ヲ出奔シ、姓名ヲ佐野道可ト變シ、大坂ニ籠城ス。城陷リテ五月廿一日山城大藪村鷲尾寺ニ自殺ス。徳川氏元珍及ヒ其弟粟屋元豊（圖書）ヲ疑ヒ、之ヲ輝元ニ質ス。因テ七月九日元珍元豊及ヒ其弟妹等ヲ京師ニ上ス。既ニシテ元珍等徳川氏ノ免ス所トナリテ歸ル。上關ニ至ル、輝元之ヲ福原

廣俊（越後守）ニ預ケ、龍谷寺ニ置ク、事既ニ解トイヘドモ猶煩忌ニ渉ルヲ以テ遂ニ之ニ及ヘリ、元豐ハ美禰郡ニ死ス。（内藤家譜、美禰郡風土註）

紀元二千二百六十七年

（進）

三年四月廿八日、輝元改メテ毛利就隆ヲ都濃郡降松荘ニ封ス。（三末年表）六月、將軍秀忠上洛ス、就隆輝元ニ代リ預參ス。（新撰雜案）八月、石見津和野城主坂崎出羽守出走、佐波郡ニ來リ三田尻ヨリ乘船ス、津和野滯在ノ幕吏（駒井右京進、小笠原市左衛門、柳生又右衛門）急使ヲ馳セ、三田尻代官ニ之ヲ抑留シ、津和野ニ還スヘキヲ囑ス、代官香川景貞（亥左衛門）坂崎主從ヲ追ヒ、都濃郡笠戸ニテ之ニ及ヒ、相俱シテ還ル、輝元物頭二員ヲ差シ坂崎主從三人ヲ津和野ニ送致ス。（故事年表、井上家譜）

紀元二千二百七十二年

八年二月、輝元都濃郡長穗村龍文寺住職昌爽ニ豐臣太閤ノ畫像ヲ附與シ、之ヲ祀ラシム、爲メニ殿司侍者ノ二寮ヲ新建シ、

紀元二千二百八十五年

殿司寮ヲ以テ靈殿ニ充テ、侍者寮ヲ以テ其饌供所ニ充ツ。（故事年表）

寛永二年六月十一日、村上元重（太兵衛）ニ死ヲ賜フ。初メ其死ヲ賜ハントスル、元重ノ驍雄ニシテ一族知音頗ル多キ、或ハ命ヲ拒ミテ城下ヲ騷カサンコトヲ憚ル、因テ毛利元俱（山城守）ニ命シ、其采邑ニ元重ヲ遣ハシテ所置セシム。元俱ハ元政ノ男ナリ、命ヲ聽テ直ニ自ラ元重ノ邸ニ抵リ、之ニ告ケテ曰ク、先公終ニ臨テ卿ヲ勘當シ、余ニ預クルヲ遺言スト。今日其命ヲ奉承ス。余卿カ材ヲ愛シ、且其無實ヲ憫ム、而レ𪜈之ヲ陳謝スレハ不敬ニ涉ルヲ以テ陳スルヲ獲ス。卿暫ク余カ采邑ニ赴ケ、余應ニ卿ニ代テ陳謝スヘシ。若事諧ハスシテ死ヲ賜フニ至ラハ、使札ヲ以テ之ヲ報セン。元重曰ク、謹テ命ノ辱ヲ拜ス。公ハ貴胄ナリ、命スル所アル其ヲ召スヘシ、而ルニ駕ヲ

敝居ニ枉ク。某カ榮大ナリ。監吏一人ヲ賜ハヽ割腹スヘキノミト。七日乃チ家族僕從廿八人ヲ率ヰ。元俱ノ領内熊毛郡清尾村ニ抵ル。十日元俱家從作間隼人ヲシテ死ヲ賜フヲ報セシム。元俱ノ留守等命ヲ傳ントス。元重カ拒ンヲ慮ル。家宰村上惣兵衛曰ク。隼人命ヲ傳ヘヨ。某太兵衛カ顔ヲ窺ヒ。拒ムノ色アル乃チ太兵衛ヲ抱カン。卿等直チニ二人ヲ斫レト。翌日惣兵衛

隼人等健士廿餘人ヲ率ヰ。元重カ寓居ニ至リ。惣兵衛等四人元重ニ面シ。死ヲ賜フノ奉書。并ニ元俱ノ書翰ヲ附ス。元重之ヲ見ル。惣兵衛云フ。事公旨ニ出ルモ死ニ遺憾アラハ某請フ耦刺セン。某陪臣ト雖モ某カ父（市郎右衛門清之）元就公ノ命ヲ以テ元政ノ家宰トナル。敵スルニ不足ト云フコトヲ。元重感謝シテ曰ク。若シ組頭ヲ差遣セラレハ闕死セント期セリ。而ルニ城州

公ノ懇志及ヒ卿等ノ芳意ヲ辱クス。何ンソ暴舉セント。請文及ヒ元俱ノ答書ヲ作リ。内ニ入テ妻子五人ヲ刺殺シ。坐ニ還リ。言フテ曰ク。某カ通稱太兵衛。今腹ヲ太字ニ刦セン。則左手刀ヲ取テ一字ヲ畫シ。刀ヲ右手ニ附シテ人字ヲ作リ。字形イカンヲ問フ。惣兵衛等荅言フ。其ノ勢恰モ筆ヲ以テスルカ如シ。元重微笑シ云フ。點ヲ加ヘテ畫ヲ終ヘント。臍下ニ刀ヲ刺シ。了テ吭ヲ斷テ死ス。元重肥皙。姿容ニ美ニシテ。武技能セサル所ナシ。尤雜刀ニ長ス。其ノ死ヲ賜フ何ノ故ヲ知ラス。或ハ云フ。元重ノ能ヲ妬ム者爘元ニ搆陷スルニ其仕女ニ通スルヲ以テシテ之ニ及ヘリト。（毛利家譜）

（村上元重事。是ヨリ先キ慶長五年爘元移封以来。或ハ床第ノ詬リヲ以テ。或ハ典刑ヲ犯スヲ以テ。死ヲ賜フ者少ナカラス。而シテ從容自裁。人ヲシテ感セシムル者。元重及ヒ天野藤内景重アルノミ。故ニ特ニ標出セリ。）九月廿一日。吉川廣家卒ス。（系圖。三末年表。）是歲。兩國檢地成ル。本

紀元二千三百九十六年

國ヲ三十七萬三千四十石八斗八升二合トス。（検地帳・役人帳・無盡集・熊野家譜）

三年齋藤等順没ス。（八十歳）等順歸ハ李齋出雲國冨田ノ人ナリ。父ヲ等閑ト云フ。僧雪舟ノ弟子ニシテ名ハ永門號ヲ雪溪ト云フ。等順父業ヲ絶テ天正年中吉川氏ニ仕フ。子孫畫ヲ以テ業トス。（齋藤家系）

紀元二千三百九十一年

明正天皇寛永七年五月佐波郡三田尻船廠ノ波戸ヲ築ク。（郡方年表・山嘗漫筆）

紀元二千三百九十二年

九年安藝大竹土人鼻操川ニ石垣ヲ築ク。コレヨリ川口埋リテ河水我和木村ニ入リ河トナル。コレヲ今川ト称ス。和木村民之ヲ論スルト雖モ聽カス。（玖珂郡誌）

紀元二千三百九十四年

十一年秀就幕府ニ毛利就隆ヲ藩屏ニ列センコヲ乞フ。允サル。[redacted]

紀元二千三百九十八年

十五年六月毛利就隆始メテ降松ニ入ル。（三末年表・末家岩國事・福間家譜）

紀元二千三百年

後光明天皇慶安元年二月十三日氷上山恒

例妙見會ノ童舞ヲ廢シ、始メテ能ヲ興行ス、（棟札）六月十五日、毛利就隆降松ヨリ野上村ニ移住ス、（有故雑文新撰雑纂三末年表）

紀元二千三百年

三年八月二日、佐波郡ノ内東大寺ノ所領地ヲ收メ、米三百石及ヒ其代官屋敷料トシテ米五十石ヲ大坂ニテ交附スヘキヲ東大寺ニ約ス、（東大寺事）

紀元二千三百一年

承應元年、都濃郡野上村ヲ德山ト改ム、（三末年表）

紀元二千三百六年

後西院天皇明暦二年正月十八日、山口今八幡宮境内地ニ井ヲ穿チテ、古銀判十枚ヲ獲タリ、（長防古器考風土註進案）

紀元二千三百十七年

三年三月、是ヨリ先キ承應三年十二月大島郡戸津ノ中浦ニ死鯨漂著ス、熊毛郡室積ノ漁人初メ之ヲ洋中ニ認ム、追テ中浦ニ至リ之ヲ取ラントス、土人與ヘス、遂ニ相爭フテ止マス、因テ客年四月郡奉行兒玉就重（傳右衛門）室積ニ出張シテ之ヲ裁判ス、

博古堂藏

紀元二千三百八年

コヽニ至テ魚價ヲ折半シテ各之ニ與フ。

（大記録）

萬治元年二月廿一日。佐波郡三田尻本町火アリ。七十八戸。船廠ニ及フ。（闌船十五隻。運輸船八隻焼失。古来）

（火事記）閏十二月廿二日。夜山口東西後河原町。西ハ半。窪小路。錢湯小路。立小路。皮屋町。現今此町名失ス。堂前町。相物小路。立賣町。松木町。端坊真正寺ヲ餘ス。及ヒ中市十戸餘火ク。災ニ罹ル戸數三百三十九戸。寺二宇。死人一人ナリ。當時山口屋數總計一千五百餘ナリト云フ。（同上）

紀元二千三百十九年

二年五月都濃郡洪水。（大記録）九月十六日。佐波郡高須町火アリ。二十五戸

紀元二千三百二十年

寛文二年四月九日。山口驛ニ駄馬寡少ナルヲ以テ紺屋灰運上銀ヲ無利息ニシテ畜養者ニ貸シ。元銀ヲ往キ四箇年間ニ返納セシム。（大記録）六月。玖珂郡和木村ノ莊屋加屋又蔵安藝大竹村ト爭ヒ。其侵掠スル所ノ海境ヲ回復ス。是ヨリ先キ大竹和木ノ小村ナルヲ侮リ。毎ニ境ヲ侵シ漁利ヲ

妨碍ス。又蔵之ヲ慨シ境界ノ事ニ盡力ス。功ヲ以テ客年莊屋トナリ。益意ヲ海境回復ニ注ク。村民又蔵ノ約束ニ從ハンヿヲ乞フ者五十七人。本月八日貝ヲ裝束濱ニ取ルヲ大竹ニ報ス。大竹ノ者百餘人來リ妨ク。又蔵衆ヲ督シテ之ヲ走ラス。十三日又鬪フテ之ニ捷チ。海境ヲ復ス。（茲後時々大竹ヨリ来リ襲フトイヘドモ一回モ敗レシヿナシト云フ。）又蔵寶永九年死ス。墓ヲ裝束濱ニ築ク。濱ヲ字シテ石塔濱ト云フ。（和木大竹爭論一事記録。玖珂郡誌。）

紀元二千三百五十年　靈元天皇延寶元年六月。吉川廣嘉岩國川ニ橋ヲ架ス。廿八日經始シ。十月十三日ニ至テ落成ス。長百廿間。名ツケテ錦帶橋ト云フ。岩國川此地ニ至テ錦川ト字スルヲ以テナリ。（玖珂郡誌）

紀元二千三百六十年　七年八月八日。毛利就隆江戸ニ卒ス。（系圖。三末）

（年表）天和二年十月廿九日。山口錢湯小路火ア

紀元二千三百三年

リ三十九戸（古来火事記）

三年五月廿二日、宇佐川繁房（半兵衛）、繁昌（新六）、木村二郎右衛門ヲ玖珂郡山代ノ金山谷ニ所殺シ父讎ヲ復ス、是ヨリ先キ正保二年四月十二日、繁房等カ祖父弘氏（九郎左衛門）、二郎右衛門カ父荘屋木村與三右衛門ト所務ノ事ヲ宇佐村ニ論ス、與三右衛門及ヒ其弟二郎兵衛、畔頭三郎右衛門、弘氏父子カ大原村ニ歸ルヲ道立野ニ要擊ス、弘氏父子之ト鬪ヒ、與三右衛門等ヲ殺ス、弘氏カ嫡男弘次（吉内）死シ、二男弘俊（作内）傷ツク、弘氏私鬪人ヲ害スルヲ以テ切腹ニ處ス、寛文八年四月五日、二郎右衛門、其弟吉兵衛、二郎兵衛カ子茂左衛門及ヒ僕一人ヲ率ヰ、弘俊ヲ襲殺ス、因テ二郎右衛門ヲ追放ス、二郎右衛門歸國シ金山谷ニ潜居ス、繁房等之ヲ覺リ讎ヲ報セントス、會二郎右衛門カ子小三郎安藝ニ赴ク、繁昌之ヲ

知テ、是日兄繁房ト小三郎カ歸ルヲ要シ、誘テ我家ニ還リ、小三郎ヲ饗シ、其ノ麁衣ヲ服スルヲ以テ絺衣袴帶及ヒ袷衣ヲ與ヘ、父二郎右衛門ニ遣ハスノ書ヲ作ラシム、已ニシテ繁房兄弟小三郎ヲ挾ミ曰ク、汝ヲ斫殺スヲ以テ鬪フヘシト、小三郎刀欄ヲ握ル、繁房等其ノ敵スルヲ待タスシテ之ヲ斫リ、直ニ金山谷ニ至ル、從者若干人ヲシテ小銃ヲ携ヘシム、先ツ僕一人ヲ馳セ、小三郎ノ書ヲ送リ、途中腹痛スルヲ告ク、二郎右衛門其ノ書ヲ讀ム、兄弟室内ニ突入シ、報讎ヲ呼ハリテ二郎右衛門ヲ斫殺セリ、繁房兄弟罪ヲ獲テ追放セラル、蓋シ誘テ小三郎ヲ殺シ、且僕從ヲ率井小銃ヲ携フルヲ以テナリ、後繁房ヲ宥メテ舊祿ヲ與フ、（無盡集、宇佐川家譜、浸收家筋帳、目付所日帳）

紀元千三百四十四年

貞享元年、佐波郡三田尻船廠ノ波戸ヲ築ク、（長五十間、毛崎漫筆）

紀元二千三百四十六年

三年。防長抨檢地成ル。本國現檢高四十五萬七百九石七斗八合トナレリ。（徳山岩國ハ舊檢高ナリ。）（檢地抑）

紀元二千三百五十九年

東山天皇元禄十年。都濃郡平田開作成ル。（地下）

紀元二千三百五十九年

十二年。三田尻ニ塩田ヲ開ク。後之ヲ古濱ト称ス。（風土註進案）（上申）

紀元二千三百六十年

十三年九月。三田尻ニ波戸ヲ築ク。長三百九十間。（山崎漫筆）

紀元二千三百六十六年

寶永三年。安藝大竹土人大竹川中流ニ石垣ヲ築ク。（玖珂郡誌）

紀元二千三百六十九年

六年三月八日。都濃郡德山火ク。千三百戸餘寺二宇。（波邊年表）

紀元二千三百七十年

中御門天皇寶永七年二月。大島郡久賀浦火アリ。九月三日。山口常榮寺火ク。本寺ハ毛利隆元ノ香華所ニテ。モト安藝郡山城ニアリ。國清寺住職立雪惠心ヲ開山トス。正親町天皇常榮廣利禪寺ノ勅額

博古堂藏

ヲ賜フ。輝元安藝ヨリ本國ニ徙ルニ及テ國清寺ヲ改メテ常榮寺トセリ。（寺社證文。風土註進）

紀元千三百七十二年

榮

正德元年十二月十日。玖珂郡錦見火ク。（百戸餘。又吉敷郡秋穗村火アリ。百戸餘。渡邊年表）

紀元千三百七十二年

二年八月九日。都濃郡大風雨。（山崎漫筆）九月十九日。吉敷郡仁壁神社火ク。（風土註進案）

紀元千三百七十三年

三年二月二日。大島宰判ヲ廢シ。上關宰判ニ合セ。花岡宰判ノ内鹿野大潮二村ヲ割テ山代宰判ニ隷シ。小郡宰判ヲ廢シテ。山口及ヒ船木宰判ニ隷ス。（役人帳）

紀元千三百七十五年

五年三月二日。山口火ク。（二百十戸餘。渡邊年表）十八日。大島宰判及ヒ鹿野大潮二村ヲ舊ニ復ス。（役人帳）

紀元千三百七十六年

享保元年三月七日。三田尻船廠ノ巨船三隻火ク。（渡邊年表）四月十三日。幕府毛利元次ヲ廢シ。出羽新庄ノ戸澤政庸ニ預ケ。其男百二郎三次郎ヲ吉元ニ預ケ。元次ノ遺領ヲ

紀元二千三百七十九年

吉元ニ還附ス。（還附一事記錄）七月十一日。吉元德山ニ代官ヲ置キ。元次ノ舊領ヲ管セシメ。德山宰判ト名ツク。（役人帳）九月三日。小郡宰判ヲ復ス。（同上）十二月。元次ノ遺臣九人ヲ流ニ處ス。（三末年表）

紀元二千三百七十八年

三年岩國領ハ農民一千四百餘人黨ヲ結ヒ萩ニ出訴セントト都濃郡ニ出奔シ。花岡ニ屯ス。[redacted]

紀元二千三百七十九年

四年五月廿八日。是ヨリ先キ吉元幕府ニ毛利元次ノ罪ヲ宥メテ隱居トシ。男百二郎ニ家名ヲ襲カシメンコトヲ請フ。コヽニ至テ幕府之ヲ聽ス。元次今井谷ノ舊邸ニ還ル。吉元百二郎ニ元次ノ舊領ヲ與フ。德山宰判ヲ廢ス。八月二日。百二郎萩ヨリ德山ニ入ル。後元服シテ元堯ト名ツク。（系圖役人）

紀元二千三百八十年

紀元二千三百八十一年

五年。仁壁神社ヲ造營ス。（風土註進案）（帳渡過年表）

六年三月朔日。是ヨリ先キ吉川經永領內

出走ノ農民ヲ論ストイヘ氏聽カス。是ニ於テ吉元ノ命ヲ以テ口羽元之衛等萩ヨリ岩國ニ至リテ裁斷シ。客年正月廿五日ヲ以テ首唱八十三人ヲ萩ニ送リ。其餘ハ鄉里ニ還ラシム。茲日張本八人ヲ斬ニ處ス。

紀元二千三百八十五年

口羽家譜

十年佐波郡鯖川ニ橋梁ヲ假設ス。渡邊年表

紀元二千三百八十六年

十一年十一月五日。德山中間町火アリ。二百戶。

紀元二千三百八十七年

十二年九月廿七日。河野通文没ス。六十七歲。通文字養哲佐波郡三田尻船手方河野某ノ二男ナリ。出テ他氏ヲ襲ク。水軍ノ役ヲ受ク。長スルニ及ンテ樂マス。乃チ夜竊ニ讀書ス。人トナリ伉俠自ラ喜フ。廉潔汚レス。遂ニ籍ヲ人ニ附シ還リ去テ醫トナル。亦屑トセス。則其ノ居宅ヲ塾ニシ。刀圭ノ贏ヲ傾ケテ經費ニ給シ以テ子弟業ヲ請フ者ヲ延ク。一ノ才俊業ヲ勤ムル者ヲ得レ

ハ喜シテ食ヲ忘ル之ヲ視ルヿ子ノ如シ
第子日ニ益進ム高第陸續學館ニ擢補セラル人ノ急ニ趨クヿ同室ノ如シ鄉黨皆父兄ヲ畏レス唯養哲ヲ畏ル享保四年代官養哲ノ賢ヲ以テ聞ス當職桂廣保能登延見シ問フテ曰ク子亦欲スル所アル歟對曰ク無シ一揖シテ出ツ其ノ亢簡如此廣保爲メニ其ノ居宅ノ僑ヲ除ク養哲終身娶ラス子ナシ門人ニ遺囑シ官ニ告ケテ

紀元二千三百八十八年

居宅ヲ習業ノ所ト爲シ若シ請フ所ヲ得サル之ヲ火ケ以テ親戚ニ貸スルヿ無カレト官其義ヲ高トシ志ヲ終ヘシム越氏塾ト名ツク河野氏本氏越智タルヲ以テナリ（周南文集越氏塾由來）

十三年五月廿七日佐波川洪水沿岸諸村多ク害ヲ被ル藤木村ノ農甚右衛門カ家崩レ老母持ニ溺レントス甚右衛門カ妻居常善ク姑ニ仕フ之ヲ見テ抱ク所ノ幼

兒ヲ捨テ姑ヲ救フ。水退ソクノニ及ンテ還ルニ、崩屋中呻々ノ聲ヲ聞ク。乃チ屋ヲ穿テ之ヲ出ス。鬼更ニ恙ナシ。人以テ至孝ノ感スル所ナリトス。代官以テ聞ス。米二石ヲ與テ之ヲ褒賞ス。（賞譽書抜）是年、東大寺交附米ヲ改メテ四百石（高千石ノ四ツ成）トシ、其ノ内六十五石ヲ運送料諸寺社寄附料候人及ヒ中間ノ恩給ニ除キ、其ノ餘ノ三百三十五石ヲ交附スヘキヲ約ス。（東大寺事）

紀元二千三百九十二年

十七年、岩國川西町火アリ。

紀元二千三百九十三年

十八年、冬、都濃郡降松火アリ。（百戸餘）

紀元二千四百五年

櫻町天皇延享二年二月、吉敷郡阿知須浦火アリ。（百戸餘）（波邇年表）

紀元二千四百六年

三年二月、熊毛郡三井村ノ農與左衛門米百石ヲ獻ス。初メ與左衛門ノ之ヲ獻セントスル、郡吏先例ナキヲ以テ元居米ニセンヿヲ諭ス。與左衛門曰ク、某ノ父某ニ讓ルニ田畠四町餘ヲ以テス。某耕耘怠ラス

紀元二千四百七年

シテ之ヲ倍シ。既ニ二子ニ分與セリ。今官ニ獻セント欲スルハ其贏餘ナリ。之ヲ元居ニスル。利息ヲ兒等ニ賜フヘシ。彼等之ヲ受ル。農事ニ怠ルヘシト。是ニ於テ郡吏以テ聞ス。官其志ヲ感シ。特ニ之ヲ允シ。後年ニ至リ二子カ家若シ困窮セハ救助スル所アラント諭ス。（賞譽書抜）是年。佐波郡出雲神社火ク。

桃園天皇延享四年二月晦日。山代宰判ヲ分

紀元二千四百十年

紀元二千四百十二年

紀元二千四百二十年

チテ前奥ノ二宰判トス。（役人帳）

寛延三年。出雲神社ヲ再建ス。

寶暦二年十一月九日。安藝大竹村民和木村ヲ侵ス。（玖珂郡誌）

十年十一月。吉敷郡長野村石工仁兵衛米四石ヲ獻ス。之ヲ賞シテ銀百目ヲ賜フ。是ヨリ先キ元文四年山口町ニ棄兒アリ。仁兵衛之ヲ舉ク。官其ノ養育料トシテ米二俵ヲ與フ。仁兵衛其ノ米ヲ以テ田地ヲ購

紀元二千四百廿三年

紀元二千四百廿七年

ヒ。其ノ加調米ヲ頼母子銀トシ。本年米四石ヲ獲ル。此米タルモト恩賜ニ生スルヲ以テ。之ヲ獻シ。且彼ノ田地ヲ沽却セサル限ハ。毎歳獲ル所ノ加調米ヲ積テ十年ノ後ニ至リ。又獻スル所アランヲ願フ。官之ヲ允シテ。此賞アリ。其カ獻スル所ノ米ハ山口代官所ノ修補米トス。（賞誉書抜）

十三年。吉敷郡山口火アリ。（渡邊年表）

後櫻町天皇明和四年三月。是ヨリ先キ享保

紀元二千四百廿八年

紀元二千四百三十年

十五年十二月。佐波郡田島ニ塩田ヲ開ク。コヽニ至テ成ル大濱ト名ツク。（風土註進案）是年。徳山町職部某カ妻三男児ヲ生ム。

五年七月十七日。大濱鶴濱ノ塩田成リシヲ以テ。三田尻及ヒ小郡宰判ノ地ヲ割キ。中間宰判ヲ置ク。（役人帳）

七年七月十一日。岩國洪水。（山崎漫筆）九月。和木大竹境界ヲ論ス。（玖珂郡誌）十二月廿七日。佐波郡島地村火アリ。二百十九戸。馬一疋焚死。（山崎漫筆）

紀元二千四百廿一年　後桃園天皇明和八年八月廿四日。[redacted]郡大品[redacted]火アリ。百一戸（同上）九月六日。大島郡牛島明治九年熊毛郡ニ隷ス。火アリ。百十六戸（同上）十月。和木大竹境界論平ラク。廿四日。定約書ヲ交換ス。

紀元二千四百卅年　（玖珂郡誌）安永三年九月朔日。都濃郡鹿野大潮ノ二村ヲ前山代宰判ニ隷ス。（役人帳）

紀元二千四百卅六年　五年十月十三日。前與ノ山代宰判ヲ合セテ一ト爲ス。（同上）是歳。佐波郡勝間浦ニ開作ス（風土註進案）

紀元二千四百卅八年　七年七月十一日。岩國洪水。（渡邊年表）

紀元二千四百五十二年　光格天皇天明二年九月四日。大島郡安下莊火アリ。一社寺各一宇。（百五十三戸。山崎漫筆）

紀元二千四百五十三年　三年五月十三日。重就欵ヨリ三田尻ノ別業ニ徙居ス。（渡邊年表）

紀元二千四百五十五年　五年正月九日。大島郡佐合島明治九年熊毛郡ニ編入ス。火アリ。百二戸（山崎漫筆）夏。重就涼臺ヲ來山ニ起ス。地中古器若干品ヲ獲タリ。石匣ヲ作

リテ之ヲ藏ム。小祠ヲ建立シテ若宮ト云フ。（當時久米皇子ノ殯地タルヲ知ラス。唯認メテ古昔貴紳ノ墳墓トス。）（石匣銘風土註進案）

紀元二千四百五十九年

寛政元年二月十六日。周防洋颶風。（山崎漫筆）四月十三日。佐波郡宮市火アリ。（戸數詳ナラス。前小路ヨリ出火。立市中市本市市焼失。）

紀元二千四百五十一年

三年六月十五日。安藝大竹村民來リ和木村ノ河隄ヲ壞ツ。和木村民之ト鬪フ。（和木大竹爭論一事記錄）

紀元二千四百五十三年

五年。佐波郡堀村鎮坐出雲神社ノ式内號ヲ停ム。同郡右田村堂岡ノ出雲神社ヲ式内社トス。（明治改正風土註進案。二復古ス。改正記錄）

紀元二千四百五十七年

十二年。都濃郡櫛濱ノ商（村井）喜右衛門ニ永世苗字帶刀ヲ許ス。喜右衛門客年乾魚ヲ長崎ニ鬻ク。適和蘭國船港中ニ沈没ス。蘭人拔クヿ能ハス。遂ニ長崎奉行ニ依頼ス。奉行朝比奈昌始（河内守）榜文ヲ揭ケ。其人ヲ募ル。喜右衛門巧思アリ。募ニ應シテ之ヲ

紀元二千四百五十年

浮ム。蘭人酒肴ヲ贈リ。明年復タ砂糖廿五箱ヲ贈ル。奉行銀三十枚ヲ以テ之ヲ賞ス。事幕府ニ達ス。老中松平伊豆守奉書シテ旭日章ノ船旗ヲ下賜ス。因テ此賞アリト云フ。（新撰雑纂）

享和元年三月。義奴六松ニ月俸ヲ賜フ。六松ハ熊毛郡指川村ノ三右衛門カ奴ナリ。幼ニシテ父ヲ亡フ。三右衛門之ヲ憫ミ六松母子ヲ収養ス。後三右衛門カ家産落ツ。

六松獨力主家五人ヲ鞠シ。艱苦數年。遂ニ主家ノ土田ヲ復ス。邑人皆六松ノ義ヲ感ス。子ナキ者女ヲ以テ之ニ娶ハセ。其家産ヲ讓ラントスルアリ。三右衛門モ亦六松ノ功ヲ報スルヿ能ハサルヲ憂ヒ。其請ヲ幸トス。六松肯セスシテ曰ク。我アラスンハ主家久シキヲ得ス。我固ヨリ一世ニシテ足ル。奕世ノ主家ヲシテ斷絶セシムルカ如キハ不忠ナリ。主家全キヲ得ハ主家

紀元二千四百六十二年

豈我ヲ棄ンヤ。婦ヲ娶ルハ願フ所ニ非ラスト。遂ニ聽カス。是ニ至テ此賞アリ。六松優游年ヲ經。文化十三年正月年八十三歲ニシテ没スト云フ。（賞誉書拔。義奴碑。風土註進案。）

二年七月。防藝ノ國界ヲ定ム。是ヨリ先キ元年三月大竹村民來リ和木村民ノ漁獵ヲ妨ケ。一人ヲ傷ツケ。六月十一日古川ノ流ヲ塞ク。是ニ於テ大竹川ノ水暴漲シ和木村ノ今川ニ注キ。沿流ノ田ヲ崩壞ス。吉川經倫之ヲ藝藩ニ告ク。應セス。因テ齊房ニ訴フ。齊房吉田某（右衛門）ヲ安藝ニ差遣シ境界ヲ論ス。是ニ至テ大竹川ノ支流和木村ノ今川。大竹村ノ古川ヲ塞キ。大竹川ノ中央ヲ以テ國界トス。（和木大竹爭論一件記錄。玖珂郡誌。）

紀元二千四百六十八年

文化五年九月十四日。片山則（順蔵）没ス。（六十九歲。）則字順甫。吉敷郡吉敷村ノ人。鳳翩ト號ス。

毛利[redacted]ノ譜代ナリ。儒學ヲ以テ寛政三年藩士ニ擢ラル。人トナリ耿介特立直

方ヲ以テ自ラ居ル。權貴ニ屈セス。屢上書時弊ヲ論ス。遂ニ言事ヲ以テ罪ヲ獲。鄉里ニ歸リ隱居ス。コヽニ至テ沒ス。（分限帳。鳳翩集。）

紀元二千四百七十四年

十一年二月十六日。山口常榮寺火ク。（寺傳）

紀元二千四百七十五年

仁孝天皇文政七年二月廿四日。是ヨリ先キ佐波郡西浦ニ開作ス。コヽニ至テ成ル。（風土）

註進案

紀元二千四百七十七年

十年九月十一日。玖珂郡山代本鄉火アリ。勘場及ヒ寺社民屋合計百四十九宇。（渡邊年表）

紀元二千四百八十八年

十一年正月廿三日。是ヨリ先キ佐波郡佐野村ノ遠崎ニ開作ス。コヽニ至テ成ル。（同上）

二月十四日。熊毛郡岩見島（祝島ノ轉訛）火アリ。

三百十六戶（同上）是年。山口寶現靈社ヲ多賀神社ノ東南數歩ノ地ニ移ス。（社傳）

紀元二千四百八十九年

十二年正月九日。大島郡久賀浦火アリ。四百五十七戶。焚死十五人。（渡邊年表）

紀元二千四百九十年

天保二年六月五日。大島郡大雨洪水。戶田村ノ山崩潰。民屋ヲ倒シ人畜ヲ壓殺ス。四十

四戸・死亡六・十五人・牛九頭・（同上）七月廿七日・三田尻宰判ノ農民蜂起シ・中ノ關濱方ノ商石見屋嘉右衛門ノ居宅ヲ撞破シ・其他ニ及フ・此事ノ起ル前一日嘉右衛門及ヒ同村ノ上屋儀兵衛萩ヨリ還ル・吉敷郡小鯖村ヲ過ク・村人嘉右衛門カ駄荷中ニ皮革アランヲ詰ル・當時禾穀收獲セサル前ハ・村人牛馬ノ皮革ヲ運搬スルヲ停ムルヲ以テ例トシ・路傍ニ廬舍ヲ假設シ之ヲ點檢ス・嘉右衛門籃輿中朝鮮犬ノ皮褥ヲ敷ク・之ヲ出シ其ノ半折ヲ駄荷中ニ入ル・他ハ更ニアルヿナシト答フ・茲時村人群至ス・一人云フ・駄荷中ノ皮ヲ出シ・村人ニ酒ヲ賒ラハ調停スヘシト・嘉右衛門之ニ依頼ス・彼又云フ・村店ニ赴キ居テ決議スルヲ俟ツヘシト・嘉右衛門等將ニ村店ニ赴カントス・衆之ヲ逃亡スルト誤認シテ呼フ者アリ・是ニ於テ衆人嘉右衛門等ヲ地上ニ撲靡シ・

遂ニ之ヲ縛シ。本日ニ至リ郡界鯖山峠ニ上リ追放セントスルニ。三田尻宰判ノ者來リ會シテ伊佐江村ニ赴キ。光宗寺ノ松樹ニ嘉右衛門等ヲ釣下シテ打擲シ。終ニ中間ニ抵リ。市街ヲ巡肆シテ其居宅ヲ撞破シ。勢ニ乗シテ其他ニ及ヘリ。嘉右衛門等纔ニ身ヲ以テ免ルヽト云フ。廿八日。黨徒益加ハリ來山ニ會シテ。仁井令村槐原其カ宅ヲ毀ツ。廿九日。佐野宮市及ヒ吉敷郡ノ壇等ヲ亂ル。茲夜。吉敷郡仁保郷ニ入リ。黨與ヲ募リ。八月朔日。山口ニ出テ。市街及ヒ湯田矢原等ノ豪富ヲ撞破シ。器財ヲ焚毀ス。二日。吉田代官林某（喜八郎）ヨリ至リ説諭ス。某民心ヲ得ルコヽニ於テ事絶ニ止ム。（仕置帳）廿二日。吉敷郡小郡宰判ノ農一揆シ。嘉川江崎深溝等ノ豪家ヲ撞破ス。（同上）九月廿七日。玖珂郡高森ノ農蜂起ス。（同上）十月七日。熊毛郡岩田村騷擾ス。（同上）十一月

二日。高森再ヒ蜂起ス。四日ニ至テ鎮靜セリ。（同上）

紀元二千百九十六年

七年二月廿日。岩國藏本火ク。（渡邊年表）三月十六日。都濃郡福川村火アリ。（百四十二戶）（同上）四月廿七日。幕府毛利廣鎮ヲ城主格ニ班シ。高増ト爲ス。（三末年表）

紀元二千五百一年

十二年二月十三日。氷上山恒例妙見會ノ能ヲ廢シ。始メテ舞樂ヲ行フ。是年。都濃郡長穗村龍文寺火ク。

紀元二千五百五年

弘化二年十一月十一日。矢野淳市藏（六十六歲）沒ス。淳字子淳。三田尻ノ人ナリ。筥山ト號ス。畫ヲ能クス。門人ニ林靖（眞人）釋公壽アリ。公壽半雲ト號ス。同所眞宗光明寺ノ住職ナリ。（無給帳眞蹟）

紀元二千五百十三年

孝明天皇嘉永六年十二月八日。上田纘明（茂右衛門）沒ス。（八十五歲）纘明字恭述。山口ノ人ナリ。鳳陽ト號ス。學和漢ヲ兼ネ。尤國典ニ精シ。纘明山口ノ地ニ學校ナキヲ慨シ。講習堂ヲ

紀元二千五百六十年

創ス。藩主嘉賞シ國學ニ準シ書籍ヲ賜フ。後ニ周防明倫館ト改称セリ。（上田纘明墓碑）

安政三年八月十一日。山口築山ノ松樹ニ霹靂ス。（大内氏遺愛ノ古松十ヨリ。月見松ト号ス。一名管絃松。樹心空洞トナレルニ雷火入リ。樹梢ノ節隙ヨリ炮焔ヲ噴出ス。土人力ヲ合セ淫土ヲ背負シテ樹上ニ躋チ。火口ヲ塗塞ス。翌日ニ至リ他ノ節隙ヨリ又火ヲ發ス。之ヲ救フトイヘドモ滅セス。遂ニ十四日伐テ之ヲ倒ス。樹根猶火ヲ發ス。十九日ニ至リ樹根盡キテ自ラ止ムト云フ。（今八幡宮扁額山田氏筆記）

十二月十八日。岩政信比古（要吉）没ス。（六十七歳）信比古ハ玖珂郡新庄村

紀元二千五百六十一年

ノ豪農ナリ。國學ヲ以テ聞ユ。（見聞誌）

五年五月。僧月性没ス。（四十二歳）月性字ハ知圓。清狂ト號ス。大島郡遠崎村真宗明圓寺ノ住職ナリ。年甫十五肥豐ノ間ニ遊學シ。又京畿ニ往來シ。常毛三越ニ遊ヒ。名士ト相唱酬スル者十餘年。詩名大ニ興ル。而シテ月性常ニ外寇ヲ以テ憂ト爲ス。嘗テ西蕃紀傳ヲ讀ミ。葡人匪教ヲ以テ吼哇ヲ誘キ。遂ニ其國ヲ奪フニ至リ。慨然以謂ク彼ノ

吼哇ニ施ス所ノ者ヲ以テ來リ我ニ施サハ則其患タル細ニアラス彼既ニ教ヲ以テ民ヲ誘ケハ我モ亦教ヲ以テ民ヲ結ハサルヘカラスト是ヨリ法ヲ講スル此意ヲ申說ス忠悃懇到聲淚共ニ下ル聽者感激群集常ニ堂宇ニ滿ツ藩老益田親施（彈正）（後右衛門介ト改ム）福原元僩（越後）及ヒ浦元襄（藏員）尤モ之ヲ愛シ數延見シテ縱談セシメ且其ノ采邑ニ遣ハシテ講說セシム是ニ於テ月

性ノ名遠近ニ噪シク呼テ海防僧ト云フ丙辰ノ春本願寺門主召テ京師ニ至ラシメ其說ヲ問フ月性乃チ書數千言ヲ作リ之ヲ呈ス門主大ニ之ヲ奇トシ俸銀ヲ給シ東山ノ別院ニ置ク將ニ用ウル所アラントス京師處士梅田定明（源郎）ニ月性ト親善一日談紀伊ノ海備ニ及フ月性ニ屬シ往テ說カシム月性即チ束裝和歌山ニ至ル藩老久野丹波邀見大ニ其說ヲ悅フ嘆

曰方外ノ人憂念此ノ如シ我輩肉食安ソ慚サルヲ得ンヤト此時ニ當リ幕府方ニ蝦夷ヲ經理ス本願寺ニ命シ其徒ヲ差遣シ居民ヲ誘導セシム月性其撰ニ膺リ將ニ往ントス故アリ果サスシテ歸國ス

茲年門主復月性ヲ召ス月性疾篤キニ會ス遂ニ自ラ其起サルヲ知リ顧テ其人ニ謂曰ク吾狂愚ヲ以テ士大夫ニ從遊シ以テ虛聲ヲ博スルヲ得ル者ハ皆先妣ノ力

ナリ今將ニ往テ泉下ニ從ヒ生前不了ノ奉ヲ竟ントス死何ソ恨ムニ足ラン但朝家ノ爲メニ外患ヲ除ク能ハス是吾恨ナリト短古一篇ヲ作リテ終ル月性狀貌魁梧頭栗毬ノ如キモ數旬剃セス性豪宕酒ヲ嗜ミ百金ヲ揮霍シ以テ意ニ介セス人ト議論スルヤ直遂假借スル所アルナシ嘗テ藩老某ノ宅ニ詣ル酒間之ニ謂曰ク君カ家太タ宏敞盍ソ毀チ以テ演武場ト

爲サヽル。醉ハ則客劔ヲ取リ掀舞豪吟。旁ニ人無キカ如シ。或ハ少シク其意ニ觸ルレハ怒氣激發抑遏スヘカラス。然レ𪜈義ニ趨ル渴スルカ如ク。喜テ人ノ寃枉ヲ洗フ。是ヲ以テ人賢不肖トナク皆愛シテ之ヲ親ムト云フ。（忠節事跡稿　蒲海遺文）

十月。孝女吉敷郡臺道村寡婦石。都濃郡末武下村ノ農宇吉祖母政ニ。永名字ヲ許シ。且其高年ヲ勞シ。真綿二把ヲ賜フ。石夫ヲ伊八ト云フ。貧困シテ田畠ヲ沽却シ。長崎ニ遊ヒテ還ラス。石ヨリ舅姑ニ仕フ。舅姑共ニ足疾アリテ歩行スル丁能ハス。其ノ往ント欲スル所アル。石之ヲ負フテ往ク。數年一日ノ如シ。人或ハ離緣ヲ乞ヒ以テ他ニ再嫁センヿヲ勸ム。石顧リミス。偶長崎ノ人石カ近隣ニ來リ。石カ孝負ヲ感シ。歸國スルニ及ンテ伊八ヲ諭シ家ニ還ラシム。伊八感悟シテ歸鄉シ。家業ヲ勉勵シテ相共ニ父母

ヲ養胡セリ。文政七年官石カ孝ヲ賞シ。終身足役ヲ除キ。毎歳米一俵ヲ與ヘ。又時々褒賞セリ。政夙ニ夫ノ棄ル所トナル。獨身老父母ニ仕ヘ。辛苦ヲ嘗ム。人其ノ貪ヲ憫ミ。金錢ヲ惠メハ葉ヲ拾ヒ草ヲ刈リ以テ之ニ報ス。人復婚ヲ迎ヘンヿヲ勸ムレハ。夫アル或ハ父母ニ疎ナルヿアランヲ恐ル。父母死セハ尼トナリ。其ノ冥福ヲ弔スヘシトテ迎ヘス。官屢之ヲ賞シ。遂ニ其宅

前ニ孝女某ト錄スル石標ヲ建ツ。後姪ノ子宇吉ヲ養子トス。宇吉亦ヨク政ニ仕フ。コヽニ至テ此賞アリ。石年七十。政年九十六ナリト云フ。（賞誉書抜・碑文）是年。松永祐利周甫ニ吉敷郡鑄錢司村南原ノ地ヲ與ヘ。藥園ヲ開カシム。（南原藥園記）南原ノ地タル。三方赭山ニ河アリテ砂礫ヲ流シ。霖雨スル必水患アリ。人更ニ開墾スルナシ。祐利本郡ニ生レ。コノ數十町ノ地ヲ空クスルヲ慨シ。心ヲ樹藝培養ニ注スルヿ多年。ゴヽニ至テ實際ニ試驗センヿヲ請願ス。因テ此命アリ。祐利コレヨリ堤塘ヲ築キテ水患ヲ除

キ・田園ヲ開キ草種木苗ヲ播殖ス・今ニ至テ孜々怠ラス・既ニ當時植ル所ノ樹木其ノ屋ヲ覆フアリ・祐利本年六十■歳ナリトカ云フ・

紀元二千五百三十年

萬延元年七月・弘正方平五郎没ス・五十二歳・正方ハ三田尻ノ人ナリ國學ニ長シ歌詞ヲ能クス・晩年京師ノ邸吏トナリテ役中ニ終ル・長柄山風・松迺藤靡等ノ著アリ・無給帳・遺稿・

紀元二千五百三十三年

文久三年四月廿二日・常榮寺住職祖溟暗殺セラル・祖溟號ハ韶陽・筑前ノ人ナリ・人トナリ敏慧・其寺祖恵心・元就父子ノ命ヲ奉シ・天朝及ヒ足利家ニ往來シテ・遂ニ犬照佛智國師ノ榮號ヲ辱クセシ・僻業ヲ繼クニ意アリ・性容ヲ好ミ之ヲ待ツ甚タ厚シ・而シテ身ニ奉スル貧寺ノ僧ヨリモ薄シ・唯淹茶ハ當時藩主トイヘモ殆及ハサル物ヲ喫セリ・尊攘ノ事起ルニ及ンテ專ラ有志ノ士ト交ル・其徒京師ニ抵ラントシテ資ナキ者・之ヲ祖溟ニ謀レハ・乃チ金ヲ借シ・衣ヲ與ヘ少シモ吝ムヿナシ・淨財

之カ爲メニ盡キ。田園ヲ典賣シテ猶負債アルニ至ル。人或ハ月シテ安國寺惠瓊トス。祖溟敢テ意トナサス。曰ク。惠瓊モ亦豪傑ナル哉ト。長井時庸雅樂祖溟ヲ以テ用ウヘキ者トシ。欵接持論ヲ盡ス。祖溟大ニ心服シ。時庸ニ緣テ其宿志ヲ果サントス。是ヨリ少壯ノ疎仟スル所トナル。時庸ノ死ヲ賜フヤ。祖溟悔惜シテ萬里ノ長城ヲ壞ツトス。少壯益之ヲ惡ミ。且ツ祖溟カ或ハ慶親ニ謁シテ議スル所アランヲ恐ル。此時ニ當リ。斬奸ノ舉盛ニ世ニ行ハル。少壯之ニ倣ヒ。山口ノ耳目ヲ一洗セント欲ス。茲日祖溟慶親ノ旅館ニ出テ起居ヲ問フ。少壯謂フ。我輩カ慮ル所今日ニ在リ。若カス之ヲ殺シテ後患ヲ除キ。且ツ之ヲ以テ因循ノ徒ヲ激セン。ニハト。其夜館ノ使ト稱シテ常榮寺ニ抵リ。祖溟ヲ拉テ出ス。之ヲ寺門外ニ斫殺ス。廿三日。首ヲ後川原ニ梟

シ。其罪狀ヲ標榜ス。（見聞誌）七月二日。慶親父子勅使ノ下向ヲ以テ山口ニ出ツ。茲夜大風暴雨。四日。勅使正親町三条公董宮市ニ來リ次ル。定廣其ノ旅館ニ趨ク。六日。勅使吉敷郡ニ入リ。氷上山興隆寺ヲ以テ旅館トス。（敬親事跡）七日。吉敷郡鯖山ノ勝坂。小郡ノ柳井田等ニ新關ヲ置ク。（同上）八日。慶親父子勅使ニ興隆寺ニ謁シ。勅諚ヲ拜戴ス。（同上）十二日。勅使赤間關ニ赴ク。（同上）二十日。慶親敎

地ハ邉隅ニシテ尊攘ノ事ニ便ナラサルヲ以テ。山口ニ居住スルヲ國内ニ告ク。（同上）八月十九日。是ヨリ先キ幕吏中根市之丞。鈴木八五郎赤間關ニ下リ。攘夷ノ事ヲ按問ス。奇兵隊之ヲ論破シ。且逼テ其軍艦ヲ借ル。中根等揚陸吉敷郡小郡ニ來リ次ル。茲夜人アリ其旅宿ヲ襲ヒ。八五郎及ヒ市之丞ノ從者二人ヲ害ス。市之丞其ノ之ク所ヲ知ラス。或ハ云フ。市之丞丸尾崎ニ抵

リ船ニ乗セシト。（忠節事跡稿　接幕紀事）九月三日。是ヨリ先キ七月十一日勅使赤間關ヨリ佐波郡ニ還リ。三田尻ニ滯在ス。コヽニ至テ九州ニ濟ル。慶親壯士四十三人ヲ陪從セシム。（敬親事跡）十五日。慶親三田尻ニ抵リ。三条實美（中納言）三条西季知（中納言）東久世通禧（中將）壬生基修（修理大夫）權四條隆謌（侍從）錦小路頼德（右馬頭）澤宣嘉（主水正）ヲ慰問ス。是ヨリ先キ六月三日。慶親堺町門宿衛ノ命ヲ奉ス。慶親毛利元純・吉川經幹・及ヒ益田親施ヲシテ之ヲ守ラシム。八月十八日。朝廷俄ニ我ノ宿衛ヲ罷メ。實美以下十三人ノ入朝ヲ停ム。元純等變ヲ聞キ馳セ至ル。諸門戒嚴一介ノ入ルヲ許サス。關白鷹司輔凞ノ第ニ至リ寃ヲ訴フ。輔凞モ亦朝禁ヲ受ケ事端ヲ悉サス。實美等責罰セラル。尋テ元純等ニ諭シ衆ヲ勒シテ闕下ヲ退ソキ。恭黙命ヲ俟タシム。元純等方廣寺ニ退ソキ。百方

哀許ス。許サレス。乃チ關白ニ上疏シ。歸藩邊ニ備ヘンヿヲ請ヒ。其夜衆ヲ擧ケテ西下ス。實美以下七人禁ヲ脫シ。元純等ト同シク三田尻ニ到ルヲ以テナリ。（京師變動扣）朝廷幕府防長人民ノ京師ニ入ルヲ禁ス。[redacted]十月二日。澤宣嘉出走ス。藩士南八郎（本名河上弥一正義）等八人之ニ從フ。尋テ兵ヲ但馬ノ生野ニ擧ク。幕府出石豐岡姫路等ノ諸藩ニ命シテ之ヲ討ツ。十四日宣嘉ノ衆潰ユ。八郎妙見山ニ戰フ。衆寡敵セス。同志皆自殺ス。八郎其ノ首ヲ介シ。而シテ自刎シテ死ス。例ニ因レハ八郎等ノ小傳ヲ附スヘシ。而シテ是ヨリ先キ安政五年吉田矩方勤王ノ事ニ死ス。爾後國事日々變遷。之カ為ニ身ヲ敎ス者相踵クヲ以テ。矩方ヨリ斷シテ節義ニ死スル者ハ別ニ小傳ヲ輯シ。本編ノ附錄トス。宣嘉復來奔シ。長門ニ潛匿ス。（忠節事跡稿）十一月七日。慶親萩ニ赴ク。十六日還ル。（敬親事跡）是月。癸丑甲寅以來慶親父子天朝幕府ノ間ニ盡力セシ事ヲ陳疏シ。奉勅始末ト名ツケ。井原親

章(主計)ヲ使トシ之ヲ京師ニ上ル。(同上)十二月十一日。奉勅始末ヲ國内ニ頒布ス。(同上)游擊軍五百人來島政久(又兵衛)ニ管轄セシメテ三田尻ニ置キ。奇兵隊三百人瀧厚德(彌太郎)赤根武人ヲ総督トシテ赤間關ニ置キ。八幡隊百人堀[redacted](新五郎)駒井忠仲(政五郎)ヲ総督トシテ山口ニ置キ。集義隊五十人櫻井[redacted](新平)ヲ総督トシテ小郡ニ置キ。義勇隊五十人佐々木[redacted](龜之助)秋良貞温(敦之助)ヲ総督トシテ上關ニ置ク。(同上)

山口縣史略卷第二　終

明治十三年七月廿八日板權免許
明治十五年四月出板

著者　山口縣士族　近藤清石
周防國吉敷郡山口八幡馬場十番地居住

出板人　同縣平民　宮川臣吉
周防國吉敷郡山口中市町六番地居住

定價三十三錢

近藤清石著

山口縣史畧

周防國之中

二

特31
345

東京圖書館

新門	函四四
八部	一一架
類	號